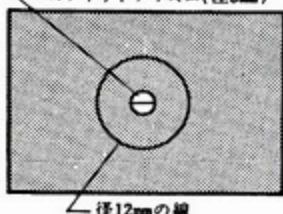
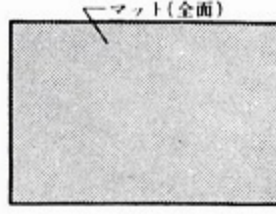
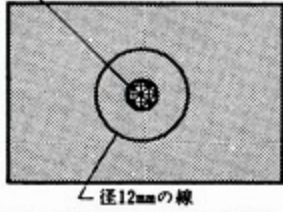
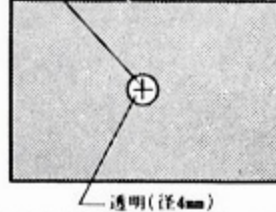
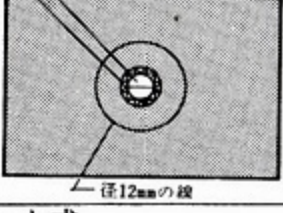

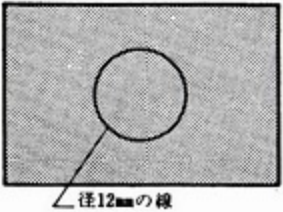
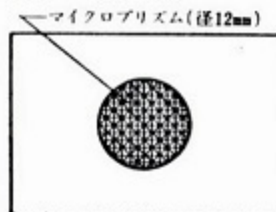
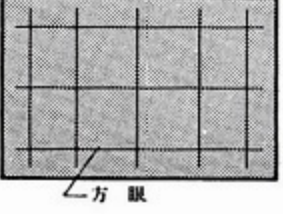
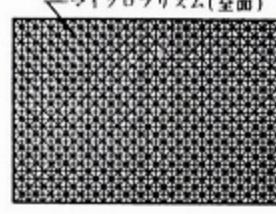
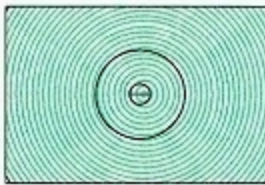
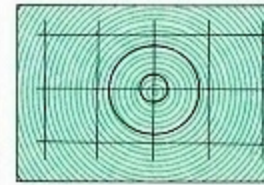
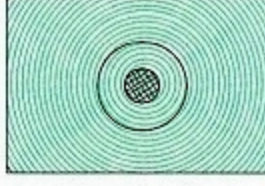
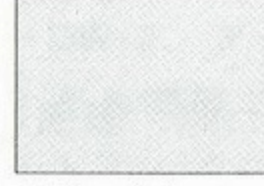

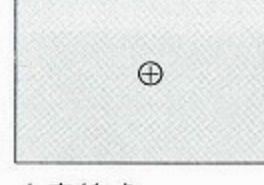

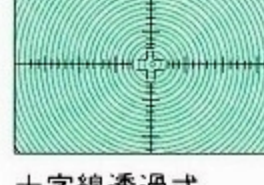
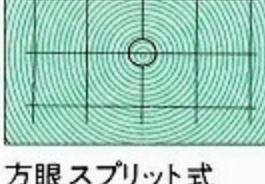
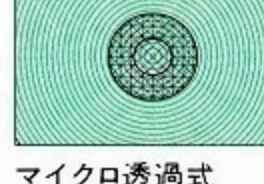
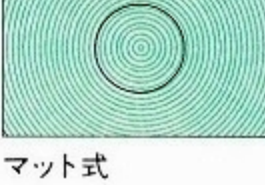
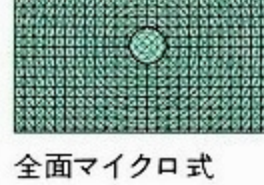


Fファインダースクリーンの種類

型	名称・形状	特徴	型	名称・形状	特徴
A・L	スプリット式 	一般撮影に適し、マット面および中央のスプリットプリズムを使用しますと、早く正確にピント合わせができます。ただしf/4.5よりも小絞りではスプリット部が暗くなりますので、この時はマット面でピント合わせを行ないます。L型(斜スプリット式)は、中央スプリットプリズム部が45度傾斜したものです。カメラを傾けなくても水平線のピント合わせができます。	D	全面マット式 	このスクリーンは、フレネルレンズがありませんのでフレネルレンズの線をわずらわしく思う方が望遠レンズを使用する時にこの型が適します。ただし、標準レンズや広角レンズを使用する時は周辺が暗くなりますから不向きです。
J	マイクロマット式 	一般撮影に適し、中央のマイクロプリズム部およびマット面を使用してピント合わせをします。マイクロプリズム部はピントが合っている場合はマット面と同じようにはっきり見えますがピントが合っていない場合はギザギザに見えます。f/8位より小絞りでは、マット面でピント合わせを行ないます。	C	十字線式 	顕微鏡および天体写真撮影用です。眼をわずかに左右に振っても、像と十字線のずれを感じないときピントが合ったこととなります。ただし顕微鏡で40倍以上の対物レンズ使用のときはこのずれが見にくいので単に像と十字線がハッキリ見えるようにします。
K	スプリット・マイクロ式 	一般撮影に適します。A型の中央スプリットプリズム部の外周にリング状にマイクロプリズムを設けたもので、A型とJ型の特徴を兼ねたものです。	M	十字線透過式 	顕微鏡写真およびベローズ使用の近接撮影に適します。透過式ですから、暗い被写体でも明るい視野が得られ、目盛線を利用して倍率や被写体の大きさを知ることができます。ピント合わせはC型と同様に行ないます。
B	マット式 	一般撮影に適します。特にマット面でのピント合わせを好む人や、長焦点レンズなどスプリットプリズムが使用しにくい場合に好適です。	G (No. 1) ~ (No. 4)	マイクロ透過式 	マイクロプリズム部によってピント合わせをしますがフレネルの部分にマット面がありませんので暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。その反面被写界深度を見ることはできません。また、レンズに合ったスクリーンをしないとケラレを生じますので、No.1(短焦点用)~No.4(長焦点用)が用意されております。
E	方眼マット式 	B型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用する時、このスクリーンを用いますと好都合です。	H (No. 1) ~ (No. 4)	全面マイクロ式 	被写体が視野のいずれの個所にあってもマイクロプリズムでピント合わせができます。G型と同様マット面がありませんので明るい視野が得られます。これもG型と同様にNo.1(短焦点用)~No.4(長焦点用)が用意されております。

F2ファインダースクリーンの種類

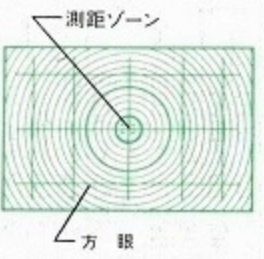
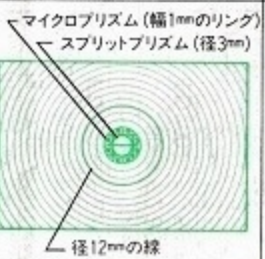
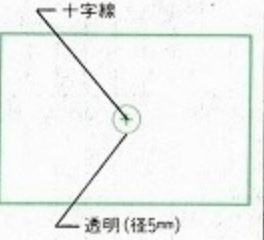
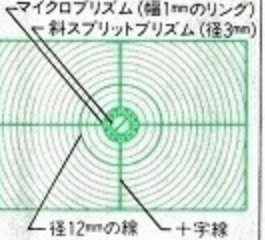
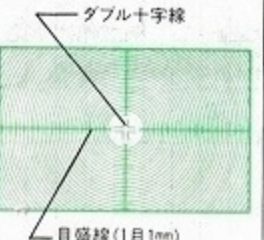

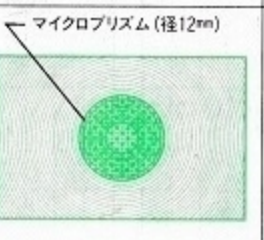
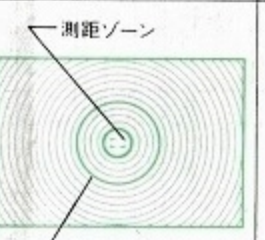
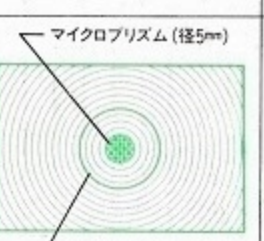

A・L型	 <p>スプリットイメージ式</p>	<p>一般撮影に適し、マット面および中央のスプリットプリズムを使用しますと、早く正確にピント合わせができます。ただしF5.6位よりも暗いレンズではスプリット部が暗くなりますので、このときはマット面でピント合わせを行います。L型(斜スプリット式)は、中央スプリットプリズム部が45度傾斜したものです。カメラを傾けなくても水平線のピント合わせができます。</p>	E型	 <p>方眼マット式</p>	<p>B型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用する時、このスクリーンを用いますと好都合です。</p>
J型	 <p>マイクロプリズム式</p>	<p>一般撮影に適し、中央のマイクロプリズム部およびマット面を使用してピント合わせをします。マイクロプリズム部はピントが合っている場合はマット面と同じようにはっきり見えますがピントが合っていない場合はギザギザに見えます。F8位より暗いレンズでは、マット面でピント合わせを行います。</p>	D型	 <p>全面マット式</p>	<p>このスクリーンは、フレネルレンズがありませんのでフレネルレンズの線をわずらわしく思う人で望遠レンズを使用する時にこの型が適します。ただし、標準レンズや広角レンズを使用する時は周辺が暗くなりますから不向きです。</p>
K型	 <p>スプリットマイクロ式</p>	<p>一般撮影に適します。A型の中央スプリットプリズム部の外周にリング状にマイクロプリズムを設けたもので、A型とJ型の特徴を兼ねたものです。</p>	C型	 <p>十字線式</p>	<p>顕微鏡および天体写真撮影用です。眼をわずかに左右に振っても、像と十字線のずれを感じないときピントが合ったこととなります。ただし顕微鏡で40倍以上の対物レンズ使用のときはこのずれが見にくいので単に像と十字線がハッキリ見えるようにします。</p>
P型	 <p>斜スプリットマイクロ式</p>	<p>一般撮影に適します。K型の中央スプリットプリズム部を45度傾斜させ、十字線を加えたもので、カメラを傾けなくても水平線のピント合わせができます。また十字線により被写体の傾きが容易にわかり、構図を決めるのに大変便利です。</p>	M型	 <p>十字線透過式</p>	<p>顕微鏡写真およびペローズ使用の近接撮影に適します。透過式ですから、暗い被写体でも明るい視野が得られ、目盛線を利用して倍率や被写体の大きさを知ることができます。ピント合わせはC型と同様に行います。</p>
R型	 <p>方眼スプリット式</p>	<p>A・L型に比べスプリットプリズムの角度が小さく、F3.5からF5.6までのレンズに好適です。また、方眼が入っていますから、撮影の際の構図の決定に便利です。 なお、F1.2からF2.8クラスの明るいレンズではスプリットの合致像は見えますが、ピント合わせ精度上適しません。</p>	G型 No. 1 No. 4	 <p>マイクロ透過式</p>	<p>マイクロプリズム部によってピント合わせをしますがフレネル部分にマット面がありませんので暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。その反面被写界深度を見ることはできません。また、レンズに合ったスクリーンを用いないとケラレを生じますので、No.1(短焦点用)~No.4(長焦点用)が用意されております。</p>
B型	 <p>マット式</p>	<p>一般撮影に適します。特にマット面でのピント合わせを好む人や、長焦点レンズなどスプリットプリズムが使用しにくい場合に好適です。</p>	H型 No. 1 No. 4	 <p>全面マイクロ式</p>	<p>被写体が視野のいずれの個所にあってもマイクロプリズムでピント合わせができます。G型と同様マット面がありませんので明るい視野が得られます。これもG型と同様にNo.1(短焦点用)~No.4(長焦点用)が用意されております。</p>

F3ファインダースクリーンの種類

型	名称	様式	特徴
A・L	スプリット式 ①面—中央スプリットプリズム部を除きマット ②面—中央径3mm部を除きフレネル		一般撮影に適し、マット面および中央のスプリットプリズムを使用しますと、早く正確にピント合わせができます。ただしF5.6位よりも暗いレンズではスプリット部が暗くなりますので、このときはマット面でピント合わせをを行います。L型(斜スプリット式)は、中央スプリットプリズム部が45度傾斜したものです。カメラを傾けなくても水平線のピント合わせができます。
J	マイクロマット式 ①面—中央マイクロプリズム部を除きマット ②面—中央径4mm部を除きフレネル		一般撮影に適し、中央のマイクロプリズム部およびマット面を使用してピント合わせをします。マイクロプリズム部はピントが合っている場合はマット面と同じようにはっきり見えますがピントが合っていない場合はギザギザに見えます。F8位より暗いレンズでは、マット面でピント合わせを行います。
K	スプリット・マイクロ式 ①面—中央スプリット・マイクロプリズム部を除きマット ②面—中央径5mm部を除きフレネル		一般撮影に適します。A型の中央スプリットプリズム部の外周にリング状にマイクロプリズムを設けたもので、A型とJ型の特徴を兼ねたものです。
P	斜スプリット・マイクロ式 ①面—中央斜スプリット・マイクロプリズム部を除きマット ②面—中央径5mm部を除きフレネル		一般撮影に適します。K型の中央スプリットプリズム部を45度傾斜させ、十字線を加えたもので、カメラを傾けなくても水平線のピント合わせができます。また十字線により被写体の傾きが容易にわかり、構図を決めるのに大変便利です。
R	方眼スプリット式 ①面—中央スプリットプリズム部を除きマット ②面—中央径3mm部を除きフレネル		A・L型に比べスプリットプリズムの角度が小さく、F3.5からF5.6までのレンズに好適です。また、方眼が入っていますから、撮影の際の構図の決定に便利です。なお、F1.2からF2.8クラスの明るいレンズではスプリットの合致像は見えますが、ピント合わせ精度上通しません。
B	マット式 ①面—全面マット ②面—中央径3mm部を除きフレネル		一般撮影に適します。特にマット面でのピント合わせを好む人や、F値の大きい(暗い)レンズなどスプリットプリズムが使用しにくい場合に好適です。
U	望遠用マット式 ①面—全面マット ②面—中央径3mm部を除きフレネル		B型と同じマット式ですが、100mm以上の望遠レンズを使用する場合は、B型よりもファインダー像は見やすくなります。なお、広角レンズなど焦点距離の短いレンズを使用する場合には、周辺が暗くなりますので適しません。

型	名称	様式	特徴
E	方眼マット式 ①面—全面マット ②面—中央径3mm部を除きフレネル		B型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPGニッコールを使用する時、このスクリーンを用いますと好都合です。
D	全面マット式 ①面—全面マット ②面—全面透明		このスクリーンは、フレネルレンズがありませんのでフレネルレンズの線をわずらわしく思う人で望遠レンズを使用する時にこの型が適します。ただし、標準レンズや広角レンズを使用する時は周辺が暗くなりますから不向きです。
C	十字線式 ①面—中央径4mm部を除きマット ②面—全面透明		顕微鏡および天体写真撮影用です。眼をわずかに左右に振っても、像と十字線のずれを感じないときピントが合ったこととなります。ただし顕微鏡で40倍以上の対物レンズ使用のときはこのずれが見にくいので単に像と十字線がハッキリ見えるようにします。
M	十字線透過式 ①面—全面透明 ②面—中央径5mm部を除きフレネル		顕微鏡写真およびベローズ使用の近接撮影に適します。透過式ですから、暗い被写体でも明るい視野が得られ、目盛線を利用して倍率や被写体の大きさを知ることができます。ピント合わせはC型と同様に行います。
G (No.1 No.4)	マイクロ透過式 ①面—中央マイクロプリズム部を除き透明 ②面—中央径5mm部を除きフレネル		マイクロプリズム部によってピント合わせをしますがフレネル部分にマット面がありませんので暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。その反面被写界深度を見ることはできません。また、レンズに合ったスクリーンを用いないとケラレを生じますので、No.1(短焦点用)~No.4(長焦点用)が用意されております。
H (No.1 No.4)	全面マイクロ式 ①面—全面マイクロプリズム ②面—中央径5mm部を除きフレネル		被写体が視野のいずれの個所にあってもマイクロプリズムでピント合わせができます。G型と同様マット面がありませんので明るい視野が得られます。これもG型と同様にNo.1(短焦点用)~No.4(長焦点用)が用意されております。
T	テレビフレーム・スプリット式 ①面—中央スプリットプリズム部を除きマット ②面—中央径3mm部を除きフレネル		テレビ放送用スライド原稿作成用スクリーンで、中央スプリット部でピント合わせをします。十字線と標準TV画面、動作安全区域、タイトル安全区域がそれぞれ示されています。

F4ファインダースクリーンの種類

型	名称	様式	特徴	型	名称	様式	特徴
E	方眼マット式 ①面——全面マット ②面——中央小部分を除きフレネル		B型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用するとき、このスクリーンを用いますと好都合です。	K	スプリット・マイクロ式 ①面——中央スプリット・マイクロプリズム部を除きマット ②面——中央径5mm部を除きフレネル		一般撮影に適します。中央スプリットプリズム部の外周にリング状にマイクロプリズムを設けたもので、J型の特長も兼ねています。なお、スプリットにはF5.6位まで、かげりなくピント合わせができるブライトビュースプリットを採用しています。
C	十字線式 ①面——中央径5mm部を除きマット ②面——全面透明		顕微鏡および天体写真撮影用です。眼をわずかに左右に振っても、像と十字線のずれを感じないときピントが合ったことになります。ただし顕微鏡で40倍以上の対物レンズ使用のときはこのずれが見にくいので単に像と十字線がハッキリ見えるようにします。	P	斜スプリット・マイクロ式 ①面——中央斜スプリット・マイクロプリズム部を除きマット ②面——中央径5mm部を除きフレネル		一般撮影に適します。K型の中央スプリットプリズム部を45度傾斜させ、十字線を加えたもので、カメラを傾けなくても水平線のピント合わせができます。また十字線により被写体の傾きが容易にわかり、構図を決めるのに大変便利です。なお、スプリットにはF5.6位まで、かげりなくピント合わせができるブライトビュースプリットを採用しています。
M	十字線透過式 ①面——全面透明 ②面——中央径5mm部を除きフレネル		顕微鏡写真およびペローズ使用の近接撮影に適します。透過式ですから、暗い被写体でも明るい視野が得られ、目盛線を利用して倍率や被写体の大きさを知ることができます。ピント合わせはO型と同様に行います。	B	マット式 ①面——全面マット ②面——中央小部分を除きフレネル		一般撮影に適します。特にマット面でのピント合わせを好む人や、長焦点レンズなどスプリットプリズムが使用しにくい場合に好適です。
G (No.1 No.4)	マイクロ透過式 ①面——中央マイクロプリズム部を除き透明 ②面——中央径5mm部を除きフレネル		マイクロプリズム部によってピント合わせをしますがフレネルの部分にマット面がありませんので暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。その反面被写界深度を見ることはできません。また、レンズに合ったスクリーンを用いないとケラレを生じますので、No.1(短焦点用)～No.4(長焦点用)が用意されています。	F	レフレックス用マット式 ①面——全面マット ②面——中央径5mm部を除きフレネル		マット式スクリーンで、レフレックスレンズ使用の場合に適しています。400mm以上の望遠レンズにも使用できます。
J	マイクロマット式 ①面——中央マイクロプリズム部を除きマット ②面——中央径5mm部を除きフレネル		一般撮影に適し、中央のマイクロプリズム部およびマット面を使用してピント合わせをします。マイクロプリズム部はピントが合っている場合はマット面と同じようにはっきり見えますがピントが合っていない場合はギザギザに見えます。F8位より暗いレンズでは、マット面でピント合わせを行います。	U	望遠用マット式 ①面——全面マット ②面——中央径5mm部を除きフレネル		B型と同じマット式ですが、200mmレンズ以上の望遠レンズを使用する場合は、B型よりもファインダー像は見やすくなります。なお、広角レンズなど焦点距離の短いレンズでは、周辺が暗くなりますので適しません。